

# 「恋人の聖地」で縁結び

のにぎわいを取り戻そうと市内の団体が企画。飲食の出店やステージ発表などのイベントで、男女の縁だけでなく人と人をつなげるまつりを目指す。

釜石市大平町の釜石大観音仲見世通りで10日、「えんむすびまつり」が初めて開かれる。静岡市のNPO法人に「恋人の聖地」に認定された大観音の地元にかつて

## 釜石大観音仲見世通り



仲見世通りの空き店舗でフリーマーケットの準備を進める宮崎達也代表（左）

ミニ公演、ジャグリングでも来場者を楽しませる。時間は正午〜午後5時。  
釜石大観音の照井良知総務部長による「恋人の聖地ツアー」も実施。独身の男女を対象に、隠れ縁結びスポットを案内する。会場では台風10号の被災地への義援金募金も行う。

釜石大観音は1970年に、市内の石応禅寺が建立。仲見世通りはその入り口付近で観光客向けの土産物店や飲食店が集まるようになり、近隣住民によると、90年代前半には20店舗以上が営業していたという。

ただ、今では常時営業している店は1店舗のみ。25年間続けた土産物店を3年前に畳んだ鈴木仁さん(76)は「店主の高齢化や後継者問題、客足の減少でみんな

やめていった」と語る。

## 10日に初イベント 出店や公演、活気創出

まつりは活気の創出へ昨年からの活動する「釜石大観音仲見世リノベーションプロジェクト」(宮崎達也代表)が開催。昨年の流しそ

ざまな縁をつくりたい。

「いかぼっほ焼き」などがうめん祭りなどに続く3回出店を予定。音楽や演劇の

目もの催しとなる。当日はフリーマーケットや市民有志のカフェ、露店、かつて通りで人気だった「いかぼっほ焼き」などが出店を予定。音楽や演劇の

トの宮崎代表(44)は「イベントではさま

